

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ①すべての家庭に対する子育て支援サービスの充実
----------------------------	--------------------------	-------------------------------

「施策の方向」の評価

乳児家庭全戸訪問については、子育てに不安や相談ニーズのある家庭に対する継続的な支援を行っている。ファミリー・サポート・センターについては、急な依頼に対応できるように会員登録方法に検討が必要である。また、ショートステイ、トワイライトステイ、産前産後ホームヘルパー派遣については、より利用しやすくなるような方策を検討していく必要がある。

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	
53	乳児家庭全戸訪問	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。	継続	生後4か月までに家庭を全戸訪問 親子の様子を観察、子育て相談、子育てに関する情報提供 訪問完了家庭人数 2,438人 母子保健との連携	前年度に比べ、訪問完了人数が100人ほど減っているが、出生人数が減っているため、訪問完了率はほぼ同数の92%である。 子育てに不安や相談ニーズのある家庭に対して、複数回訪問したり健康センターの保健師や子ども相談室につなげることで、継続的な支援ができた。	1232 質的充実	一人で訪問して対応が難しかった家庭に関しては、複数での再訪問を行うようにする。	子育て支援課
54	ショートステイ	保護者の病気や出産などで子どもの養育ができない場合、児童養護施設と連携し、緊急に対応します。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用世帯数 延べ4世帯、利用者数 7人 利用日数 25日	・前年度に比べて、利用世帯数及び利用者数が減となったが一定の支援ができた。 ・児童養護施設との委託契約のため、乳児に対応できない。	1235 量的・質的 充実	・新たに児童養護施設と委託契約を締結する。 ・乳児院と委託契約を締結し、対象年齢層を拡充する。	子育て支援課
54	トワイライトステイ	保護者の仕事などが恒常的に夜間にわたる家庭の子どもを児童養護施設と連携して預かります。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用世帯数 1世帯、利用者数 1人 利用日数 76日	・利用により保護者支援が一定できた。 ・児童養護施設との委託契約のため、乳児に対応できない。 ・施設まで保護者等による送迎が必要なため、利用しにくい面がある。	1236 質的充実	・送迎方法について、ファミサポの利用以外に「子どもタクシー」を紹介する。 ・乳児院と委託契約を締結し、対象年齢層を拡大する。	子育て支援課
54	ファミリー・サポート・センター	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会:49回(うち出張説明会1回)参加者:233人、個人説明:7人 講習会:25回(うち出張講習会1回)参加者:202人 研修:2回 参加者:33人 安全講習:4回 参加者82人 交流会:7回 参加者:77人 サブリーダー連絡会:11回 活動件数:5,975件 新規依頼件数:161件	・1日コースや出張説明・講習会など、入会しやすい工夫を行っているが、安全救命講習受講が会員登録に必要なため、急な依頼に対応しきれないときがある。 ・今後、登録方法に検討を要する。 ・サブリーダー開催の交流会を広報で募集することにより、会員外の参加が徐々に増え、活動を周知するいい機会となった。 ・北部地域等において、援助会員の減少により新規依頼に対応しきれない場合がある。	1237 質的充実	・会員登録方法の見直しを検討する。 ・安全救命講習の必修化に伴い、受講しやすい工夫と、未受講者への受講案内を行う。 ・援助会員の減少に伴い、新規依頼に対応しきれない地域では、援助会員と依頼会員との交流会を複数開催し、依頼会員の両方会員への種別変更を促進させる。	子育て支援課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容								
ページ (報告書)	事業	内容	行動目標	平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課
54	産前・産後ホームヘルパー派遣	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。	継続	申請件数:32件 派遣実績:183回(320時間)	・利用により、産前・産後の生活をサポートできた。 ・実施後アンケートでは、利用回数や利用期間の拡充ニーズが高かった。	1112 質的充実	・利用期間を単胎・多胎に関係なく、母子手帳交付時から生後1年までに拡大する。 ・利用回数を単胎・多胎に関係なく55回までにする。 ・委託事業所を増やす。 ・事業拡充に向けて検討する。	子育て支援課
54	出前型一時保育	子育て世代が、市主催の講演会や審議会等へ参加できるように、保育ボランティアを派遣して一時的に子どもを預かります。	継続	申請件数 1,231件 派遣実績 1,024件 保育人数 3,591人	・前年度に比べて、申請件数、派遣実績、保育人数がいずれも増加した。 ・一時保育を実施することにより、講座等へ参加しやすくなっている。	1238 継続	継続して実施する。	子育て支援課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	①(子育て支援総合センター) 利用者数:3,205人 ②(子育てすこやかセンター) 利用者数:2,183人 ③(つどいの広場4カ所) 利用者数:2,167人 利用時間・費用は各広場によって異なる。	・利用者数について、①は昨年並み、②は対前年比30%、③は対前年比50%以上の伸びとなった。 ・①及び②について、利用時間帯が1時間単位であることから、不必要な時間帯までの申込が必要となる現状がある。また、利用申請書の記入が当日までであるため、変更や取り消しが生じた場合の不都合が生じている。	1239 量的・質的 充実	・①及び②について、利用時間帯を1時間から30分単位に切り替える。 ・利用申請書の記入方法について、利用当日記載を原則とし、保護者の負担の軽減を図る。 ・保育所入所見も要件に合えば利用できるよう要件を緩和する。	子育て支援課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	私立保育園22か所で開催。 延べ預かり人数 3,193人	延べ預かり人数は、昨年比で206人の増加となった。	1239 量的・質的 充実	利用者が増加したことを踏まえ、保育士や専用スペースの確保などの課題はあるものの、さらなる量的充実に向けた方策を研究する。	保育幼稚園課
54	幼稚園の預かり保育	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育を実施します。	量的充実	公立幼稚園 利用者数 延べ30,695人	利用者数は前年比で5,066人、約20%増加しており、預かり保育のニーズは依然高い。	1222 量的充実	継続して実施する。	保育幼稚園課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ②各種相談機能・情報提供の充実
----------------------------	--------------------------	-----------------------

「施策の方向」の評価

子育てに関する相談、保健相談、教育相談、言語障害児教育相談、女性のための相談については、増加傾向にある。関係機関との連携等、相談内容の多様化に対応していく必要がある。子ども本人からの相談については、子どもが相談しやすい環境・体制づくりが必要である。また、子育てに関する情報発信については、情報を必要としている人いかに情報を届けていくのか検討が必要である。

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	相談者の負担感・不安感に寄り添い、電話や面接・訪問等で話を傾聴。また、負担感・不安感の軽減のために対応を一緒に考えていく。 電話相談:560件 面接相談:337件	・電話やメールだけでは不安感や負担感の軽減が難しいケースについては、面接相談に繋げた。 ・相談内容によっては、より適当な他機関を紹介したり、保護者の了解の上、関係機関と連携をとった。	1228 継続	継続して実施する。	子育て支援課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	支援の必要な保護者に電話・面接による乳幼児の育児・しつけ・発達・保健(予防接種等)の相談を実施した。 電話による相談 7,484件 面接による相談 1,450件	前年度と比較し、電話相談・面接相談とも増となっている。特に電話相談が約2,000件増加している。	1228 継続	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	栄養相談	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。	継続	栄養士による相談を実施した。 栄養相談件数 29件 1歳8か月児健康診査時栄養相談 262件 3歳6か月児健康診査時栄養相談 125件	前年度とほぼ同等の件数となっている。	1208 継続	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	保健相談	乳幼児の保護者に対し、乳幼児の心身の健康と育児や予防接種等の相談を実施します。	継続	乳幼児の保護者に対する子育てに関する相談を随時実施した。 電話による相談 818件 面接による相談 137件	前年度と比較し、電話相談・面接相談とも増となっている。	1107 継続	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
55	教育相談	児童、生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路等の教育に関する、電話・面接による相談を実施します。	継続	・保護者、児童・生徒を対象に電話教育相談及び面接相談を実施した。 電話教育相談 件数 129件 延べ239回 面接相談 件数 129件 延べ2,049回 ・電話教育相談は、必要に応じて専門機関を紹介したり、関係機関と連携するなど改善・解消の取組を行っている。	・面接相談では学校との連携やケース会議により、アセスメントやプランニングを共有することができた。 ・相談希望者の増加と、相談内容の多様化に対応していく必要がある。	1309 継続	・相談窓口の周知のため、広報等への掲載を続けるとともに、相談員の資質向上を図るため研修等を引き続き実施する。 ・必要に応じて学校や関係機関との連携を一層強化し、児童・生徒・保護者の精神的・心理的な安定と成長を支援していく。	教育センター

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容								
ページ (報告書)	事業	内容	行動目標	平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課
55	子ども本人からの相談	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	・児童・生徒・保護者を対象に「いじめ」ホット電話相談カードを配付した。 配付数 27,000枚 ・子ども・保護者を対象に「いじめ」ホット電話相談を実施した。 子ども本人からの相談件数 小学生 2件 中学生 5件	相談内容に応じて、関係機関と連携し、解消に向けてアセスメントとプランニングを共有する必要がある。	1317 継続	・小中学校を通して「いじめ」ホット相談カードの配付を続けるとともに、広報への掲載により相談窓口の周知を図る。 ・相談内容解消のため、学校や関係機関との連携を積極的に進める。	教育センター
55	言語障害児教育相談	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。	継続	市内在住の就学前の幼児を対象に、「発音」「コミュニケーション」についての相談を受けた。 相談件数 102件 相談回数 1,106回	・ことばの「発音」は、就学前の幼児からトレーニングを行うと、その後のコミュニケーション能力が向上した。 ・小学校入学後の通級指導教室(ことばの教室)への適切な引継と丁寧な連携が課題である。 ・相談件数や相談回数が年々増加し、相談希望者の予約待ちの期間が長くなっている。	2210 継続	・増加する相談希望に対して、特に発音とコミュニケーションに課題をもつ子どもに対し相談を行っていることを周知徹底していく。 ・通級指導教室へのスムーズな入級のため、小学校との連携をより丁寧に行う。	教育センター
55	女性・男性のための相談	性別に関わる悩みや不安等に幅広く対応できるよう相談を実施します。	継続	女性を対象に、電話・面接、DV等電話・面接、法律相談、生き方・自立相談等を実施 計 3,396件 男性を対象に電話相談を実施 12件	女性が抱える悩みや不安等女性全般に関する相談に幅広く対応できる相談窓口を充実し、関係機関との連携を図っている。同時に、男性に対する相談窓口として男性相談員による電話相談を実施することで、幅広い対応ができた。	-	-	人権・ 男女共生課
55	子育てに関する情報発信	保育サービスや子育て支援に関する情報を掲載した冊子を作成・配布します。ホームページでも積極的に情報を発信します。	継続	・子育て支援総合センターだより「kokoねっと」平成26年7月、10月、12月、27年1月に各4,000部発行。 ・子育てハンドブック情報編は平成26年10月に、15,000部発行。	子育てハンドブック情報編は、広告掲載により、発行費用をまかなう方法に移行、発行部数を増やすと共に、掲載情報の充実、視認性の向上を図った。	1229 質的充実	・「kokoねっと」は、掲載内容が茨木市立子育て支援総合センターで毎年発行している子育てハンドブックの内容と重複しているため、平成27年度からは発行を中止する。 ・子育てハンドブック情報編においては、継続して実施する。 ・年度途中に、ハンドブックを必要とする施設を適切に把握しスムーズに配布できるようにする。	子育て支援課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ③親子交流の場の充実
----------------------------	--------------------------	------------------

「施策の方向」の評価

各種交流事業について、年齢別等で工夫しながら様々な取組が行われている。今後もより利用しやすい事業となる方策や、事業をより広く周知する方法について検討しながら継続して実施していく必要がある。

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	
55	7・8か月児親子交流	7・8か月の子どもと保護者同士の交流を深める場を提供します。	継続	<p>開催場所 公立保育所・コミュニティセンター・公民館 18か所 参加人数…親632人 子ども634人</p> <p>商業施設 3か所 参加人数…親206人 子ども205人 参加人数合計 親838人 子ども839人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設3か所で開催し、多くの利用があった。 ・初回の方だけでなく、複数回の参加者がいることで、その雰囲気を楽しみ、参加者自体が遊びを盛り上げてくれる姿も見られた。交流会を通してつながりができ、誘い合う姿が見られた。 ・参加人数の少ないところでは、一層の周知が必要である。 ・不特定多数の集まる商業施設では年齢枠について検討が必要である。 ・近隣の子育て支援施設と講座やイベントの日が重ならないよう、調節が必要である。 	1255 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設での実施については、不特定多数の利用者がいるという施設特性の関係上、当該事業ではなく、対象年齢を限定せず別の事業(出前版お楽しみ広場)として実施していく。 ・より広く周知できる方法を考える。 	子育て支援課
55	地域子育て支援拠点事業	保育所や幼稚園に通っていない子どもと保護者が、気軽に集い、自由に遊べる場を提供します。	量的充実	<ul style="list-style-type: none"> ・つどいの広場を市内13か所で実施 利用者数108,164人 (うち保護者50,568人、子ども57,596人) ・地域子育て支援センターを市内7か所で実施 利用者33,112人 (うち保護者15,650人、子ども17,462人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・つどいの広場では、それぞれに特色を出し、地域における身近な子育て支援拠点として、子育て家庭の居場所を提供した。 ・プレママ、プレパパにも広場を利用していただけるよう、広場のおたよりや広報等で周知を行った。参加者は伸びていないが、今後も継続的に実施し、初妊産婦のいる家庭を支援したい。 ・公私立地域子育て支援センター会議を開催し、各センターの取組等の情報交換を行った。 ・公私立地域子育て支援センター職員を対象とした研修を実施し、新制度におけるセンターの役割や親子支援についての知識を深めた。 	1234 量的・質的 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・つどいの広場及び一時保育ができる拠点の開設場所を増やし、より身近で、利用しやすい子育て環境を整備する。 ・訪問支援事業について、広場スタッフとの意見交換会を定期的に開催し、実施方法について考える。 ・産婦人科や母子手帳に、プレママ・プレパパの広場利用案内を入れる等して周知を図る。 ・つどいの広場における一時預かり事業にて、短時間就労での預りも可能とし、より多くの子育て家庭を支援する。 ・地域子育て支援センターの実務担当者による意見交換会の場を定期的に設定する。 ・親子教室を始めとする様々な事業の実施方法について検討し、より多くの子育て家庭が気軽に利用できる拠点をめざす。 	子育て支援課

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	
55	保育所地域開放	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	質的充実	「とどちら広場」と称して8か所の保育所で地域開放を年間378回実施。年間利用者数4,398人(おとな/2,034人、子ども/2,364人)地域開放における子育て相談件数/延べ127件	気象状況や感染症発生状況により、中止していることもあり回数は減っているが、内容については継続参加になるような工夫をしたり、同年齢の入所児と関わりが持てるような取組を実施した。	1252 質的充実	落ち着いた相談場所の確保や専任職員の配置などの課題があるが、引き続き、在宅の子どもや保護者の支援になるよう取組を進める。	保育幼稚園課
55	赤ちゃんと保護者のつどい	2～3か月の乳児をもつ先輩ママが妊婦に情報提供をしたり、育児に関する悩み等を話し合ったり、友だちづくりをするなど、交流を図る場を提供します。	継続	休日版(2～6か月)の乳児及び保護者を対象に実施した。また、平日に未熟児とその保護者を対象に実施した。 休日版:5回 参加者217人 未熟児:2回 参加者 17人	休日版は、前年度と比較し1回増としたが、参加者数は変わらない。未熟児を対象に実施したが、参加者は少なかった。	1254 継続	休日版のみ引き続き実施し、未熟児については、保健師活動の中で、個々につないでいく役割を果たしていく。	保健医療課
55	ローズWAM各種親子交流	就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します。	継続	10か月から1歳6か月、1歳6か月から就学前と対象年齢をわけ、親子で楽しく遊べる講座を実施 計9回、301人参加	親子で楽しく遊べる機会を提供するとともに、親同士の交流の機会をもつことができた。	1257 継続	男女共同参画推進のための子育て支援の取組を、関係機関と連携して進めていく。	人権・男女共生課
55	幼稚園地域開放	幼稚園を開放し、在宅の親子と幼稚園の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	量的・質的充実	・園舎・園庭開放を市立幼稚園12園で124回実施 参加人数 延べ5,377人 ・夏期園庭開放 市立幼稚園7園で105回実施 参加人数 846人 ・子育て相談室 市立幼稚園12園において 利用件数 253件	園舎・園庭開放については、地域在住の親同士の交流や園児と在宅の幼児同士のつながりがもてるよう、内容を検討しながら実施した。	1252 質的充実	・参加しやすいよう実施時間等を検討する。 ・園のホームページ、市の広報等のメディアを活用し、在宅の親子への周知を図る。 ・内容に関しては引き続き、在宅の親子同士、また園児との交流を図りながら、保護者支援に努めていく。	保育幼稚園課
56	青少年センター各種講座	上中条青少年センター主催事業として、市内全域で土曜日講座・イベントを実施します。	継続	主に小学生を対象として、子どもセミナーを実施した。 実施回数40回、参加者数564人	「ものづくり」を中心に実施した。低学年から高学年まで幅広い学年の参加があった。	1412 継続	今後も、子どもが豊かな体験をする機会を提供するために、事業を継続して実施する。	青少年課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 ①家庭教育支援の充実
----------------------------	-------------------------	------------------

「施策の方向」の評価

親支援プログラムの実施については、定着してきており、プログラム終了後もアフターグループにつながっている。各種講座、セミナーについては、アンケート調査結果を参考にしながら、ニーズに沿った開催時期とテーマ設定で実施した。今後もより参加しやすくなるような開催時期、テーマ設定、周知方法などを検討する必要がある。ブックスタートについては、絵本を介して親子のふれあいができ、読書の大切さを知ってもらえる機会となっている。

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に向けての今後の改善方法	
56	親支援プログラムの実施	子どもをもつ保護者が参加者同士で悩みや関心のあることを話し合いながら、子育てについて学び合う学習会を実施します。	継続	年間4回実施(5～6月、9～10月、11～12月、1～2月) 1クール:週1回 8回連続 2時間のセッション 定員 12人 参加人数 48人	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援総合センターでの開催は、毎回キャンセル待ちが発生するようになり、定着してきた。 参加者からの口コミで広がっている面が見られる。 終了後もアフターグループにつながるなど、参加者同士が子育て仲間をつなげている。 こども相談室からの紹介での参加者もみられる。 	1256 質的充実	継続して実施する。	子育て支援課
56	子育て支援総合センター各種講座	就学前児童の保護者を対象に、乳幼児の生活リズム・家庭での事故防止等をテーマに講座を実施します。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 知って得する子育て講座 開催回数 24回、参加人数 388人 出前版 知って得する子育て講座 開催回数 9回、参加人数 98人 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートに基づき、人気の高い講座を実施した。 講座開催中の保育を3か月から実施することにより保護者には集中して講座に参加してもらうことができた。 開催時間を10:30～にすることにより、遅れて参加される方が減った。 	1231 継続	<ul style="list-style-type: none"> 暑い時期は高温注意報などもあり、出前講座の参加数が伸びないため、暑い時期の講座回数を減らし、その分土曜日に講座を開催し、父親にも参加してもらえそうな講座などを計画する。 講座ごとに対象年齢を設ける。 	子育て支援課
56	家庭教育学級	子どもの健全な育成を支援するため、児童・生徒をもつ親に対し、家庭教育の重要性を再認識するとともに、必要な知識と技術について学習する機会を提供します。	継続	児童・生徒を持つ保護者を対象に子どもを育てるために必要な知識と技術について学習するための家庭教育学級を委託により開設した。 [開設数]25学級、254回 [参加者]延べ5,114人	家庭教育学級の年間委託事業の1つとして「親まなびおでかけ講座」を必須項目としたことで、学級生が家庭教育の重要性の理解を深めることができた。	1332 継続	家庭教育学級を対象に親のあり方や子どもとの接し方などを学ぶ「親まなびおでかけ講座」を全小学校区で実施することで、市内の家庭教育の充実を図る。	社会教育振興課
56	保護者講座	思春期の子どもをもつ保護者の不安や悩みに応じた講座を実施します。	継続	主に小・中学校、高校生の保護者に対して保護者のための講座を実施した。 [実施回数]2回 [参加者]延べ39人	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の講座終了時に実施したアンケート結果などを参考に、参加しやすい日時の設定、参加者が聞きたいテーマの企画に努めた。 参加者の満足度は高かったが、家庭教育学級等への周知・広報が不十分であった。 	1332 継続	今後も講座等終了後のアンケートを参考に、社会的課題や市民の要望に沿ったテーマを研究し実施していく。	社会教育振興課
56	家庭教育セミナー	家庭の教育力向上を支援するため、家庭教育ノート等に基づき、家庭において保護者が子どもに接する態度・方法などを学習する機会を提供します。	継続	主に就学前、小学生の保護者に対して家庭教育セミナーを実施した。 [実施回数]2回 [参加者]延べ39人	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の講座終了時に実施したアンケート結果などを参考に、参加しやすい日時の設定、参加者が聞きたいテーマの企画に努めた。 参加者の満足度は高かったが、家庭教育学級等への周知・広報が不十分であった。 	1332 継続	今後も講座等終了後のアンケートを参考に、社会的課題や市民の要望に沿ったテーマを研究し実施していく。	社会教育振興課

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課
	事業	内容	行動目標					
56	ブックスタート	絵本を介した親子のふれあいのために、4か月児健診を受診する子どもを対象に、絵本を配付します。	継続	こども健康センターで4か月健康診査を受診する子どもを対象にブックスタート(4種類の絵本から1冊プレゼント)を実施した。年度36回、各図書館では随時、絵本配付数2,601冊	絵本を介して親子のふれあいを持ってもらい、読書の大切さを知ってもらう機会となった。	1250 継続	絵本の選定などにも工夫し、継続して事業を実施し、読書推進に取り組む。	中央図書館

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 ②子育て相互支援活動への支援
----------------------------	-------------------------	----------------------

「施策の方向」の評価

子育て支援の人材育成については研修方法を、家庭教育学級指導者の研修については周知方法を検討する必要がある。子育て支援団体のネットワーク化については、地区別に利用者の利便性向上を図る取組が行われた。子育て支援団体のネットワーク化については、連絡会参加への継続的な声かけで、初参加の団体が増えたが、未参加の団体には引き続き参加を呼びかける必要がある。

ページ (報告書)	茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容			平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	第3期計画		担当課
	事業	内容	行動目標			事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	
57	ファミリー・サポート・センター【再掲】	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会:49回(うち出張説明会1回)参加者:233人、個人説明:7人 講習会:25回(うち出張講習会1回)参加者:202人 研修:2回 参加者:33人 安全講習:4回 参加者82人 交流会:7回 参加者:77人 サブリーダー連絡会:11回 活動件数:5,975件 新規依頼件数:161件	<ul style="list-style-type: none"> ・1日コースや出張説明・講習会など、入会しやすい工夫を行っているが、安全救命講習受講が会員登録に必要なため、急な依頼に対応しきれないときがある。 ・今後、登録方法に検討を要する。 ・サブリーダー開催の交流会を広報で募集することにより、会員外の参加が徐々に増え、活動を周知するいい機会となった。 ・北部地域等において、援助会員の減少により新規依頼に対応しきれない場合がある。 	1237 質的充実	<ul style="list-style-type: none"> ・会員登録方法の見直しを検討する。 ・安全救命講習の必修化に伴い、受講しやすい工夫と、未受講者への受講案内を行う。 ・援助会員の減少に伴い、新規依頼に対応しきれない地域では、援助会員と依頼会員との交流会を複数開催し、依頼会員の両方会員への種別変更を促進させる。 	子育て支援課
57	子育てサークル・グループ支援	子育てサークルやグループを対象に、子育てサポーターの派遣やおもちゃの貸し出し等を行います。	継続	サポーター派遣件数:41件 おもちゃの貸出件数:78件	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のサークルやサロンに参加している親子が楽しいひとときを過ごしたり、サークルやサロンの活動の活性化につながることを目的として、サポーター派遣を実施した。 ・貸し出しおもちゃの写真を見やすくした。 ・貸し出しおもちゃの数を増やした。 	1247 継続	継続して実施する。	子育て支援課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容								
ページ (報告書)	事業	内容	行動目標	平成26年度の取組と実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課
57	子育て支援団体のネットワーク化	子育て支援総合センターを中心に、地域における子育て支援活動団体のネットワーク化を推進します。	質的・量的 充実	中央地区 年間4回の連絡会・リーダー会実施 北地区 年間10回の連絡会実施 (わくわくフェスティバル・フェスティバル実行委員会を含む) 南地区 年間10回の連絡会実施 西地区 年間3回の連絡会実施 東地区 年間5回の連絡会実施	・連絡会議で話し合い、それぞれの地区の進め方で、子育てマップや地区別イベントカレンダーをホームページにアップし、利用者の利便性向上を図った。 ・連絡会参加への継続的な声かけにより、初参加の団体が増えてきている。	1245 継続	未参加の団体には、引き続き参加を呼びかける。	子育て支援課
57	子育て支援の人材育成	地域における子育て支援活動の活性化を図るために、その中心となる人材を育成する研修を実施します。	質的・量的 充実	実技研修:41人 外部講師による研修:31人 対象:子育て支援従事者	・実技編は乳児・幼児で分けて行うことで、参加者のニーズに沿いやすかった。 ・製作は苦手な方も気兼ねなく取り組んでもらえるように準備をして、好評だった。 ・担当者同士が話し合う時間が持ちにくかった。	1248 継続	・参加者の興味のある内容を提供する。 ・回数を増やすことで、参加しやすくなる。 ・案内する時期をやや早めにしたたり、表題を工夫したり、準備物も具体的に表示して、参加しやすくし、また、実技面だけでなく担当者同士が意見交換できる時間を設ける。	子育て支援課
57	子育て支援関係団体との協働によるイベントの開催	子育て支援に関わる団体や機関との連携・交流を促進するために、協働でイベントを開催します。	質的充実	いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバル開催 参加者数 1,560人	・例年を上回る参加者数で、当日は特にトラブルも起こらず、順調に進行できた。 ・アンケート回収率を上げるために折り紙、いばらっきーちゃんストラップを作成した。見た目にも注目できるものとなり、作成分配付することができた。 ・kokoフェスティバルに公私立ともに参加し、イベントを実施することにより、連携がさらに強化された。	1246 継続	継続して実施する。	子育て支援課
57	民生委員・児童委員、主任児童委員活動の支援	民生委員・児童委員、主任児童委員による児童に関する相談・指導助言等の活動を支援します。	継続	・相談・支援の件数10,516件 うち児童に関する相談・支援の件数、延べ3,309件。 ・民生委員・児童委員、主任児童委員が、地域の子育て「子どもわいわいネットワーク茨木」活動への協力や児童虐待の防止に向けた情報収集と関係機関との連携を随時行った。	民生委員・児童委員、主任児童委員が、地域での様々な活動に参加・協力しており、平成26年度の相談支援の総件数に占める「児童関係」の割合が高かったことから、地域での身近な相談相手として定着してきたものと考えられる。	1249 継続	・民生委員・児童委員、主任児童委員が活動しやすい環境を整えるため、相談・支援に必要な研修や情報提供を行うなど、更なる充実に努める。 ・今後も引き続き、他機関との連携体制の強化に取り組みなど、ネットワークの更なる充実にめざす。	福祉政策課
57	こども会等の指導者の育成	子どもの健全な心身の育成を進めていくために、こども会等の指導者の育成や資質・指導力の向上を図るため、研修を実施します。	継続	市全体のこども会を対象とした行事に向けて、育成者への指導者研修・講習会を実施した。 キックベースボール実技講習会:19人 こども会育成者研修会(百人一首):22人	参加者数は、昨年度とほぼ同様であり、キックベースボールや百人一首の指導方法を学ぶ機会を提供することができた。	1328 継続	継続して実施する。	青少年課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容									
ページ (報告書)	事業	内容	行動目標	平成26年度の実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課	
57	家庭教育学級指導者の研修	指導者の認識、資質の向上を図るための研修を実施します。研修内容、形式、講師の選定等について、より効果的な研修成果が得られるよう工夫します。	質的充実	各家庭教育学級の指導者等を対象に、学級運営上必要と思われる知識や実践的な技術を習得し、より魅力のある学級づくりに役立ててもらうことを目的に実施した。 [実施回数]2回 [参加者]延べ49人	・昨年度の研修終了時に実施したアンケート結果などを参考に、参加しやすい日時の設定、参加者が聞きたいテーマの企画に努めた。 ・参加者の満足度は高かったが、家庭教育学級等への周知・広報が不十分であった	1333 継続	今後も研修等終了後のアンケートを参考に、社会的課題や市民の要望に沿ったテーマを研究し実施していく。	社会教育振興課	

基本目標 2. 仕事と子育てを両立できる環境づくり	主要課題 (1) 男女共同参画による子育ての推進	施策の方向 ① 男女共同参画に関する意識啓発の推進
---------------------------	--------------------------	---------------------------

「施策の方向」の評価

男女共同参画に関する啓発については、男女共同参画に関する情報提供と意識啓発を図り、理解を深めることができました。テーマ・構成・回数などを精査し、引き続き講座や啓発を実施していく必要がある。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容						第3期計画			
ページ (報告書)	事業	内容	行動目標	平成26年度の実績	平成26年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	事業No. 行動目標	第3期計画で実施する事業に 向けての今後の改善方法	担当課	
58	男女共同参画に関する啓発	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、冊子を作成し配布します。また、男女共同参画について考える講座を実施します。	継続	男女共同参画啓発のための講座を実施した、年間参加人数 11,348人 男女共同参画の推進に関する内容を掲載したカレンダーを作成、配付した。 対象:中学生 作成・配布部数:10,000部	男女共同参画に関する情報提供と意識啓発を図り、理解を深めた。	3104 継続	男女共同参画推進のために、テーマ・構成・回数など精査し、引き続き講座や啓発を実施していく。	人権・男女共生課	